

KISC

財団法人 かがしま産業支援センター
Kagoshima Industry Support Center

自社開発商品

創業や経営革新に
取り組むあなたを応援します。

天気予報時計

植物育成用LEDライト

CONTENTS

- 02 この人に聞く
- 03 女性経営者登場
- 04 特集 がんばってます!
- 06 ベンチャープラザコーナー⁵⁹
- 07 研究開発の現場
- 08 実践! IT活用
- 10 鹿児島県の融資制度 (経営金融課)
- 11 「かごしま元気おこし企業」公募の御案内
- 12 活用ください! 経営支援室
- 13 受発注情報
- 14 Information
- 16 鹿児島県人材育成センター利用の御案内
「かごしま企業情報」への掲載の御案内
メール配信サービス「KISCNEWS」の御案内

株式会社日本計器鹿児島製作所
取締役工場長 吉田 学 氏 (右)
技術部 部長 加藤 正明 氏 (左)

7月号

July 2009

この人に聞く!

産学連携により 新たな産業を創出



国立大学法人鹿児島大学長 吉田浩己

～地域とともに社会の発展に貢献～

鹿児島大学は平成19年に制定した大学憲章で、「自主自律と進取の精神を尊重し、地域とともに社会の発展に貢献する総合大学をめざす」と謳い、本学の教育、研究、社会貢献活動の基本理念としている。

平成18年に産学共同研究のコーディネートや地域産業界からの技術相談等の対応を一元化する組織として、産学官連携推進機構を設置。大学にある研究シーズと社会ニーズのマッチングを図り、企業との共同研究等を通じた研究成果の社会還元や技術移転を推進している。(財)かごしま産業支援センターの産学官連携課は本学の同機構内にあり、大学などの研究機関と県内の産業界や行政機関との連携を図るうえで重要な役割を果たされている。本学に寄せられた多くの技術相談等の問合せから共同研究につながる事例もあり、その中から、トビウオの残さいによる魚醤油や焼酎粕とサツマイモ葉茎を利用した機能性食品の開発、鹿児島人工衛星の開発など、平成19、20年度とも4件が同センターからの助成を受けている。

～ルネッサンスアカデミーでの取組み～

鹿児島の中小企業からしばしば寄せられる悩みは、製品開発に関する技術が不十分なことである。その解決策は人を育てることにある。8学部10大学院研究科を有する総合大学としての強味を生かした技術者教育、社会人へのリカレント教育が本学に課せられた責務である。平成18年11月、本学は鹿児島県や地元企業と連携して、社会人を対象に「かごしまルネッサンスアカデミー」を開講した。文部科学省の「地域再生人材創出拠点の形成」事業に採択されたもので、食品産業や観光業、自治体関係者などの受講生は「食の安全管理」「経営管理」「健康・環境・文化」の3コースに分かれ、夜間や週末を中心に1年間学ぶ。授業料は原則無料。現在3期目だが、每期約50名の受講生による横の繋がりとともに、修了生による縦のネットワークも形成され始めた。鹿児島の主力産業である食品業界が活気づけば、県全体が元気になるはずだ。

～鹿児島でしかできない産業の育成を～

経済危機の影響もあり最近では農林水産業に注目が集まり、厳しい就職環境の中、学生の地元志向も強まっている。これは優秀な人材を鹿児島にとどめるチャンスでもある。そのためには、受け皿となる魅力的な企業や職種があること、鹿児島を活性化させる人材がいること、このふたつが好循環することが必要だ。地元企業と大学との連携により、生産物に付加価値を付け商品化する、新たなマーケットを開拓する、といった取り組みで、鹿児島でしかできない魅力ある産業を育成できるはずだ。とくに鹿児島の特色である「食と健康」「島嶼」「環境」に関しては、学際的に取り組み、教育研究の拠点となることが本学の重要な役割と考えている。

本学は「進取の気風」にあふれる大学として、同じ志を持つ企業の方々と協働したい。産学官連携推進機構にお問合せいただき、鹿児島大学のリソースを存分に活用いただければ幸いである。

女性経営者登場!

出会いに感謝



有限会社 まうるーる
代表取締役社長 小迎 和代

アニマル・アシステッド・セラピー

鹿児島市小松原2-17-23
第2小松原スカイハイツ101号
Tel 099-266-6019
E-mail snowyz@jine.ocn.ne.jp

二つの出会い

「起業のきっかけは？」とよく聞かれます。もっともらしい答えがいくつか浮かぶのですが、一番の答えはスノーウィーに出会ったことなのです。

13年前に買った白でふわふわなグレートピレニーズという大型犬を飼い、共に生活する中で人並に大きな彼女の存在と能力は、徐々に私をアニマル・セラピー(動物介在療法)の世界に導いてくれました。週末のボランティアで始めたアニマル・セラピーで動物がもたらす影響を目の当たりにし、片手間ではできない奥深さと責任の重さを知りました。

そして、事業化しようと思いはじめた頃、夕方の散歩で毎日のように出会う方との会話で今後の夢を話しました。すると、ある日その方の会社に呼ばれたのです。図々しい私は事業計画書を持って訪ねました。通された部屋は会長室。一瞬にして、わが身の愚かさを恥じました。しかし、夢物語のように甘い事業計画を笑うことなく、色々な会社の方に話を聴く機会を用意してください、仕事とは、会社とは、経営とは、多くを教えてくださいました。「目の前の仕事に真剣に誠実に向き合いなさい。そうしたら、お金はいくらも。」と言う会長の言葉を毎日毎



<セラピーの様子>

日繰り返して、7年目を迎えました。

動物とのふれあい

子どもから高齢者まで、障害の有無に関わらず、全ての人を対象にするアニマル・セラピーは、動物と人が触れ合うことで心と身体が健康になることを支援するケアリングです。複雑な社会に暮らす我々は、様々な病気やストレスと闘っています。「私はどうすればいいの」「助けて欲しいな」「話を聞いて欲しいな」と感じた時、動物と共にそっと寄り添い、語り合います。動物が見せる色々な表情から人は感じ、変化していきます。その変化を肯定的にサポートしていきます。

そして、自分自身や自身の生き方を無条件に受容できた時、人は、自身の抱える問題に立ち向かうことができるのです。

これからも

このようなアニマル・セラピーを医療・福祉分野は勿論のこと、教育分野や地域社会でも導入されるよう、またセラピーに携わるセラピストの育成を行い、アニマル・セラピーを広めていきたいと思えます。

偶然と必然が用意してくれた多くの出会いとこれからの出会いに感謝し、誠実に向き合うことの大切さを教えてくれた方の言葉を忘れずに日々努力していこうと考えます。



<小迎社長とセラピー犬>

がんばっています！

株式会社 山王産業

〈企業概要〉
 所在地 鹿児島市川上町685
 創業 昭和47年4月
 資本金 二、五〇〇万円
 従業員数 18名
 業種 その他の木製品製造業
 地域資源活用認定
 平成20年12月15日
 売店 鹿児島空港
 仙巖園(磯庭園)

平成20年度から始まった国の3モデル事業(農商工連携、地域資源活用、新連携)のうち、高級な宝飾品・腕時計・筆記具など、身につける屋久杉「Jewelry Wood(ジュエリーウッド)」開発を進め、地域資源活用事業計画の認定を受けた株式会社山王産業(鹿児島市)を紹介します。

減り続ける屋久杉
 高度経済成長期などには、鹿児島の住宅建築の際には、天井、障子

屋久杉「Jewelry Wood」の挑戦



代表取締役 山王 博和 氏

はきめ細かい木目の屋久杉が好まれ、身の回りでも、テーブル等の家具、文具、盆など、至る所で屋久杉製品を見かけました。

平成5年に世界遺産に登録された屋久島では、屋久杉の伐採は国の管理下で禁止されており、使えるのは伐採後の切り株や台風による倒木などの土埋木(どまいぼく)に限られ、少しずつ配分量が減らされてきています。現在は、最盛期の約1/15。しかも、採りやすい所の屋久杉はほとんどなく、危険な斜面の土埋木をヘリコプターで搬出することが多くなり、コストも高みます。

山王産業では、今後どれくらいが読めない昨今に、従来型の大型の家具・工芸品などを作り続けることに危機感を持ち、「屋久杉が喜ぶ製品づくり」のポリシーのもと、苗、原木、板、小片、樹皮、木粉(オガクズ)、灰に至るまで100%製品化するとともに、小型で高付加価値製品の開発を精力的に進めておられます。年商約7千万円。

お父様である山王仁氏(屋久杉銘木協同組合理事長)は、長年の営林署勤務の後、昭和47年に(有)山王産業を起業されました。現社長は、屋久杉を「宝の木」と大切に育ち、屋久杉を語るときは、自信に満ちて、本心に「熱い」！

***参考)表彰**
 山王産業は、「Unique Selling Proposition」(独自販売の提案)をモットーに、自社の持つ強みを生かし、他社との差別化を図りながら、売り込みにつながる提案をしています。このような積極的なモノづくりが評価され、鹿児島県新ふるさと特産品コンクール等において、大賞2回、優秀賞3回、奨励賞7回を受賞しています。

自社開発の屋久杉商品

キーワード (生活シーン)	提案するアイテム
形 (形を楽しむ)	屋久杉家具、屋久杉美術工芸品
祈り (祈る)	屋久杉仏壇・神棚・仏像・仏具、屋久杉数珠
香り (香りで癒す)	屋久杉和の物(扇子)、屋久杉香り(お香・エッセンシャルオイル)
色 (色で安らぐ)	屋久杉染め(ハンカチ・ストール)
夢 (夢を見る)	屋久杉苗「千年の夢」
縁起物 (幸運になる)	屋久杉縁起彫刻品(家紋額)、屋久杉印鑑



＜進化した屋久杉製品＞

地域資源活用事業への取組み

平成20年8月21日、九州経済産業局及び中小企業基盤整備機構九州支部が、鹿児島県工業技術センターで行った国の事業認定に挑戦することを前提としたプレゼンテーションの場において、山王社長が高級な「Jewelry Wood」屋久杉製品づくりを熱い想いで語られました。最近では、鹿児島県工業技術センターからレーザー加工機による技術指導を受けています。

その後、当センターは、地域資源活用事業計画の認定を目指して、山王社長から詳しいお話しを伺い、中小企業基盤整備機構九州事務所、鹿児島県工業技術センター、鹿児島商工会議所と連携し

ながら計画作りを進めました。中小企業と一緒に考え、計画書づくりのお手伝いをする「伴走型支援」。平成20年12月15日付けで国の認定。今後、東京等でのイベント出展（販路開拓）、デザイン開発、試作等のための補助金（補助率2/3）などの活用が可能となります。

このような中で、「屋久杉商品の進化」を目指す山王産業の次のような真摯な経営方針が明らかになりました。

- 1 卸売りをしない。ほとんど社員の手渡し販売。デパート等での物産展販売は平成8年頃中止。
- 2 宝飾、時計等の高級輸入アクセサリーは、「本物、こだわ」志向で拡大しており、宝飾



＜屋久杉腕時計「千年」＞

品、腕時計、筆記具等の屋久杉 Jewelry Wood の開発、販売を積極的に推進。

3 世界が注目する東京の一等地の店舗で Jewelry Wood 等を販売するのが目標。屋久杉製品は原木素材に限りがあり、大量販売は困難。

4 地域資源活用事業計画期間は5年。新商品開発、販路開拓、従業員教育、事業PRを重点的に進める。インターネット通信販売も、高級品にふさわしい高級感を演出。

5 屋久杉素材を100%使いきる製品づくりで、商品アイテムは一千円（箸）〜一千五百万円（高級仏壇）と極めて豊富。

認定後の取組み・成果

- 1 地域の魅力セレクション2009（小田急百貨店新宿店）
中小企業庁主催
平成21年6月3日〜8日
- 2 地域の魅力セレクション2009（東京国際フォーラム）
出展予定
中小企業庁主催
平成21年7月31日〜8月3日
- 3 地域資源アンテナショップ「Rin（リン）」（港区北青山3-6-26）で「屋久杉フェア」実施予定
平成21年10月

※「Rin（リン）」
中小企業基盤整備機構が運営する「新しい都会の暮らし」を提案するアンテナショップ

今後の主な課題・目標

商品：屋久杉商品の進化、屋久杉アクセサリーの高級デザイン製作手法の習熟
場所：大消費地の一等地での販売（銀座、表参道、青山など）

当センターでは、中小企業基盤整備機構、県工業技術センター、鹿児島商工会議所等とさらに連携しながら、認定後のフォローアップ支援を継続的に行います。順調な事業展開を期待し、企業側の目を大切にしながら支援してまいります。



＜その他の屋久杉製品＞



(ベンチャープラザで発表する亘社長)

真空管ソーラーシステム「Fuji ヒートP・SOLAR」と「有機廃液を用いたペレット」のハイブリッドシステムの販路拡大

富士エネルギー株式会社
代表取締役 亘 元明
鹿児島市松原町13-21
TEL:099-226-6723
E-mail: fujienek@feel.ocn.ne.jp
http://www.fujiene.ecweb.jp

発表内容

〈企業紹介〉

昭和61年3月、真空管ソーラーシステムの販売会社として富士ソーラーシステム株式会社を設立し、平成11年6月、未利用エネルギーを活用した製品開発を行う富士エネルギー株式会社を設立いたしました。東京・熊本・大阪・名古屋支店、北九州営業所と全国展開をしております。

平成21年3月に、鹿児島県及び日置市の協力のもと、日置市亀原工業団地内に真空管ソーラー組立工場、新・省エネルギーの研究施設「FUJITEKノ研究センター」を併設いたしました。

〈商品開発のきっかけ〉

日本で唯一の真空管ソーラーシステムを製造するメーカーが製造を中止し、ソーラー事業から撤退いたしました。全世界が地球環境問題・二酸化炭素排出量削減を訴えている今、弊社が25年間のソーラー事業の経験を生かして、独自の製品を製造し全国に販売するに至りました。

また、循環型社会の形成、地球温暖化防止のために廃棄物を有効利用した商品の開発をいたしました。

〈商品の目的・特徴〉

真空管ソーラーシステム「FUJI ヒートP・SOLAR」

太陽エネルギーを利用して、ガラス管で集めた高温(二四〇度)の熱を水と熱交換させることにより空調(冷・暖房)として使用するエネルギー及び給湯のためのクリーンなお湯をつくります。

なお、ヒートパイプを採用することにより高効率を実現しました。



【真空管ソーラーシステムの設置例】

有機廃液を用いた固形燃料

「油水分離槽の廃水」と木質資源である「おが屑」を混合し、ボイラーの固形燃料(ペレット燃料)として使用いたします。原料がバイオマスなので二酸化炭素の排出量削減に寄与できます。

発表後の成果・感想

発表後、御問い合わせやシステム提案の御依頼、また、新聞・雑誌などの取材依頼もあり、大変感謝いたしております。

発表に際しまして、(財)かごしま産業支援センターの方々には、御助言いただきました。

今後の展望

二酸化炭素排出による地球温暖化や資源の有効利用を考え、弊社の商品が普及していくように努力し、さまざまな分野の方々との情報交換させていただき、さらなる新商品・新システムの開発ができるよう、また、弊社の合言葉であります「地球にやさしく」を実践し、社会貢献していきたいと思っております。



【有機廃液を用いた固形燃料】

研究開発の現場

京セラ株式会社

総合研究所

所長 梶島 登士巳

〈はじめに〉

総合研究所は、京セラ株式会社の創業20周年記念の一環として昭和54年に霧島市国分山下町に設立されました。京都府伏見にあった材料研究所の技術者を核にセラミック材料の研究所として発足しています。



霧島市山下町1-4
京セラ株式会社 総合研究所
TEL: 0995-45-5200

高温強度が要求されるガスタービン部品から大型の半導体製造装置部品用の構造材料、コンデンサや圧電部品に関わる機能性電子材料、ICや電子部品を搭載するセラミックパッケージや基板、更にはこれら材料技術をベースにした製品開発を行う幾つかのプロジェクト等の京セラの多岐にわたる研究開発を進めてきました。

〈研究概要〉

現在進めています研究開発事例の一部を以下に挙げます。①高い剛性を保ち尚且つ軽量の構造部品用の製造治具材料や高周波電磁界中でも誘電損失が低い製造・通信に関わる高機能材料の開発、②小型で高容量のコンデンサを実現する新強誘電体材料や1μm以下の最先端の薄層プロセスの研究開発、③高機能圧電材料の研究開発をベースにした超小型アクチュエータやセンサーの各種部品開発、④CuやAgの電気回路を内蔵しマイクロ波からミリ波までの信号伝達ができる高品質セラミック基板をベースにした大型計算機用ICのパッケージや携帯電話等の無線通信モジュールの製品展開、等です。

これら広い分野における材料開発を支えるセラミック材料の基礎

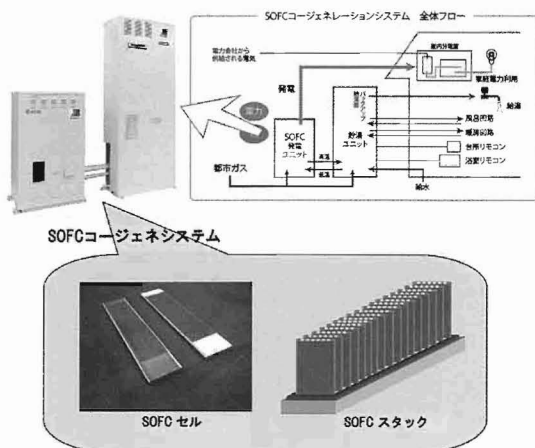
研究を行っています。セラミックの結晶構造や粒界相の設計と機能発現の基礎研究、計算機を用いた数値シミュレーションや放射光を用いたX線分析等の外部機関も活用した最先端の解析技術開発等によりこれら材料開発を推進しています。



〈プロジェクト(SOFC)の紹介〉

総合研究所が進めているプロジェクトの1つとして、固体酸化

物型燃料電池(SOFC)があります。都市ガスやプロパンガスを改質した水素と空気中の酸素を「触媒燃焼」させて電気とお湯を取り出すものです。NEDOの過去2年間の実証研究を通して、家庭で使っていただけの1kW級の京セラシステムは、40数%の発電効率、80%以上の総合効率が達成できることを確認しました。電気+ガス代が半減、CO₂排出量が40%以上削減できる、エネルギー・環境問題に大きく貢献するものです。2年後の量産化に向けて技術開発を進めています。



固体酸化物型燃料電池システムと燃料電池セル/スタック

実践！IT活用

ウェブを利用して 家が売れる！

(ブログ・ミニで
お客様を誘い込め)

皆さん初めまして、芋焼酎好きの川畑です。
嘘みたいなタイトルですが、実際に昨年だけでも3棟が契約に結びつきました。
しかも高額住宅です。廉価版じゃないですよ。
それでは、どうしてそんな事ができたのか、今回はここをお読みの皆様だけにこっそり(?)仕掛けのアウトライン・フローを紹介させていただきます。

◇HP改善ミッションのスタート

今回御紹介する新建設さんHPリニューアルの始まりは、「HPを作って1年もたつのに、検索エンジンで社名すら引つかからない。もちろん、HPからのお客様

など1件もない。誰か助けてくれる業者はいないか!？」(新建設竹下専務)

デザイン・コピー・オリジナリティ・検索エンジン対策(SEO)など確認しましたところ…正直、当時のHPは残念ながら良いところが一つも見つかりませんでした。まさにこれはもうリニューアルしなきゃ!という状態。

まずは、HP担当の竹下専務からヒヤリング、これだ!と直感的に感じました。いける!お話が面白いのです。業界の裏話や裏技等とても興味をそられるお話ばかりなのです。そんな面白さをお客様に伝えられたら…ということ、HPをリニューアルする時に竹下専務からお客様へ情報を提供するブログを導入する事を提案いたしました!



「ピカビの新建設だより」ブログ

その名も「ピカビの新建設だより」なぜ!ピカビ?って言うのかはブログを見るとわかります。(それがどうしたと思われるかもしれませんが、ここから、勝負は始まっています。このタイトルキャッチこそ命なのです。)

◇ブログに何をどの様に書くのか

まずブログの文章に、営業色が前面に出るとお客様が見てくれないうし、当然書き込みもしてくれない。

そこで、家づくりにまつわる、お客様の目線に立つ情報・業界の裏話・親しみ感をわかせる家庭的な話をブログに書き込んでいただきました。もう1つ重要なのは、主婦が読んでも理解できる言葉と内容で書くことです。



ブログを集約したHP

スタートして6ヶ月程して、一般の方々からブログに質問や、賛同のコメントが書き込まれるといった反応が現れてきました。

新建設さんは、住友林業のイノスの家の販売代理店もしているのですが、業界の裏話については、東京の住友林業本社よりチェックが入り始めました。(東京より竹下専務へ、あそこの記事は消してもらえんか?とか表現を弱くしてくれとか・・・笑)

この頃からメーカーの住友林業も竹下専務のブログから目を離せなくなつたらしいです。現在は趣向の違う7つのブログで構成されています。

◇三へお客様を誘導

ブログは不特定多数の人が誰でも見れるのですが、新建設という囲いの中の人々だけが閲覧できて、書き込みもできれば、もっと活発な意見や質問もやってくるのではないかと考えられました。そこで、当初はお客様を三に御招待し、クローズされたコミュニティで会話を始めました。

これには、うれしい誤算がありました。招待されたお客様が自分の友人を招待し始めたのです。お客様1人を御招待したのに、そのお客様の周りの友人・知人をもコミュニティにとりこめたのです。

一石二鳥どころか一石十鳥の効

果がありました。そうです、さらに招待された友人がそのまた友人を紹介するといった。ちよつと言いは悪いですがねずみ講みたいな勢いで潜在のお客様が集まりました。

現在は、この際EBSを作ってしまったえ！という勢いで新建設独自のSNSサイトを運用しています。

このSNSサイトには、建設関係にまつわる各専門家が参加していて、オール電化やソーラーシステム等の色んな質問に、メーカーの専門家が納得の行く回答をしてくれます。

しかも、このコミュニティの1番のルールは、質問を受けても直接お客様に営業をかけたたりしない事です。お客様が安心して質問の書き込みができる配慮があります。

お客様にとってはこんな便利で安心な事はありません。

この安心感と痒いところに手が届く情報をえられるので、注文に結びつくのです。

さらに、興味をもったお客様がEBSのプロフィール内のリンクからブログへ流れたり、クローズされたSNSからオープンなブログの世界へ輪が広がって行きました。

◇ブログ利用のエピソード

それではこれまで実際にあった、ブログにまつわるエピソードを3つご紹介いたします。

エピソード1

お客様が友人などから「家を建てるんだって？どんな家？」と聞かれた時に、「新建設のホームページ」に出てくるから見てね！」って答えてくれるそうです。

新建設の現場情報ブログには、建築中のお客様の家の写真が毎日アップされます。もちろん動画で中継風の情報が流れる事もあります。

施主さんも毎日、ネットで自分の新居が着々と進行している状況を見る事ができて、とても喜ばれているようです。施主さんは自分の新居を見てもらいたくて多くの友人に「新建設」のHPを知らせるそうです。(↓ロコミ効果)



新建設 SNS

エピソード2

お客さまがブログを読んでくれると、来社された時からフレンドリーです。会った事もなかったのに、ブログを読んでいて、いつも会って話しているかのようになってしまう効果があるようです。(↓すりこみ効果)

エピソード3

商談が進みづらくなっていたところ、お客様がブログを書いているピカピさん(竹下専務)であることがわかったら、共通の趣味の飛行機話等で盛り上がり、一挙に商談が取れたそうです。(↓連帯意識の効果)

ブログはお客様の都合でいつでも好きな時に見てもらえるので自然なアプローチで営業ができていられると思われれます。

ブログというバーチャルな世界からリアルな世界へお客様を意図的且つ効率的に誘導できることが証明された1例です。

WEBビジネスの根幹を成す部分で、非常に身近なレベルで容易になつてしまうのが、ブログ力であると考えられます。

皆様もブログを自社サイトに実装してみられてはいかがでしょう？
今まで見たことないような展開に驚く日々が待っているかもしれませんよ！

事例企業紹介

企業名：株式会社 新建設

専務取締役 竹下浩二

(ネット担当)

始良郡加治木町反土一四四二一八

URL

<http://www.shinkensetu.co.jp/>



☆筆者紹介☆

川畑 圭三 (Kawabata Keizo)

=所属=

株式会社 エレム・コミュニティ
WEB制作プロデュース・コンサルティング
鹿児島市名山町9-15 ソフトプラザかごしま405
TEL & FAX 099-223-1139
<http://www.elemcommunity.jp/>

鹿児島県の融資制度

離職者を新たに雇用した中小企業者の皆さま

離職者緊急雇用確保資金

を是非ご利用ください。

融資対象者

- ①～③のすべてに該当するかた
- ① 県内で現に営む事業を1年以上継続して営んでいる中小企業者及び組合
 - ② 2名以上の離職者をハローワークを通じて正規の従業員として雇用すること
 - ③ 平成20年10月31日以降、事業都合により、正規の従業員及び非正規の従業員を解雇していないこと

厳しい雇用情勢の中、離職者の雇用を確保するため、離職者を新たに雇用する中小企業者等を金融面から支援しています。

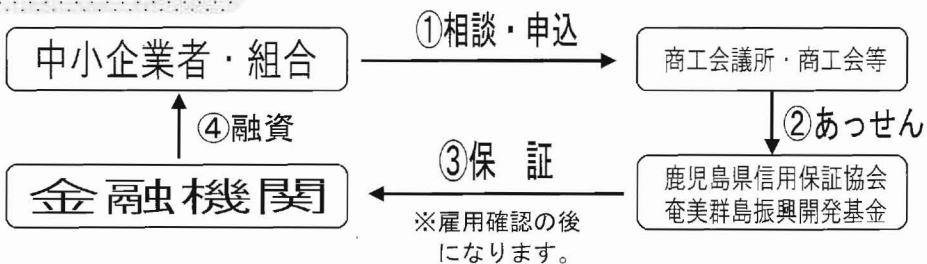
【 取扱期間 】
平成22年3月31日まで

融資条件

融資限度額	運転資金 2,000万円
利率	1年以内 年1.97% 1年超3年以内 年2.07% 3年超5年以内 年2.17% 5年超7年以内 年2.37%
保証料率	年0.13%～年1.58%(リスク考慮型信用保証料率による)
融資期間	運転資金 7年以内(据置24月以内)
償還方法	毎月均等分割
保証人・担保	保証機関の定めるところによる
取扱金融機関	鹿児島銀行、南日本銀行、鹿児島信用金庫、鹿児島相互信用金庫、奄美大島信用金庫、鹿児島興業信用組合、鹿児島県医師信用組合、奄美信用組合、商工中金、福岡銀行、肥後銀行、宮崎銀行、西日本シティ銀行、熊本ファミリー銀行、宮崎太陽銀行 (県外に本店を有する金融機関については県内営業店に限る。)
借入申請に必要な書類	○信用保証委託申込書 ○県民税及び市町村民税の納税証明書 ○雇用状況調査 ○その他知事、保証機関及び取扱金融機関が必要と認める書類

※ 申込み時に2名以上の離職者を雇用していない場合は、申込み後3か月以内に2名以上の離職者を雇用してください。

融資の流れ



— ご相談は最寄りの商工会議所・商工会等へどうぞ —

「かごしま元気おこし企業」公募の御案内

鹿児島は多くの自然に囲まれ、歴史的な背景や文化的な遺産も数多くあります。そしてそんな鹿児島だからこそ生まれてきた、有能な技術やアイデアを持つ企業が存在します。

この度、県では県内企業が有する県内の農林水産物などの地域資源を活用した製品や、製造装置などの優れた技術・製品等を、県内外の関係機関・団体等に紹介することにより、取引の拡大や販路開拓等を支援するとともに、県内学生等に対して県内企業への理解を深めてもらうことを目的とした『かごしま元気おこし企業発掘調査事業』を実施し、冊子等の製作を行うこととしました。

つきましては、県内企業の方々を対象に、優れた技術・サービス・製品等を保有している『かごしま元気おこし企業』を公募しますので、是非応募してください。



目 的 等

- 県内企業の優れた技術や製品等を県内外へPRすることにより、販路開拓を支援する。
- 県内の学生等に対し、優れた地元企業を紹介し地元企業への理解を深める。
- 「かごしま元気おこし企業」として選定された企業の概要等を、冊子・CD-ROM・ホームページ等によりPRする。

対 象 企 業

県内に本社や事業所、工場を持つ企業（製造業等）で、経営的に安定している企業であって、県内の農林水産物などの地域資源を活用した製品や、新技術や新サービスなどにより、優れた製品等を有する企業

（公募対象例）

- 県内の農林水産物等の地域資源を利用して開発した製品を有する企業
- 国内又は業界等において、製品等が上位のシェア等を有する企業
- 県内において、「オンリーワン」の技術・製品等を有する企業
- その他ものづくりに関する表彰等を受賞するなど、優れた製品・技術を有する企業など、自社の優位性を積極的に発信できる企業を公募します。

応募方法・応募期限

サイト (<http://www.kagoshima-kigyuu.net/>) から応募用紙をダウンロードし、必要事項を記載のうえ、メール (gijyutu@pref.kagoshima.lg.jp) またはファックス (099-286-5578) で応募してください。なお、サイトから直接応募することも可能です。

また、応募用紙が必要な方は、問い合わせ先に御連絡ください。

応募締め切り日：平成21年7月24日（金） 17：00まで

審 査

企業の選定については、産業界や学識経験者などで構成する選定委員会において審査を実施します。

選定された企業の方には、後日、連絡いたします。

問い合わせ先 鹿児島県商工労働部 産業立地課 技術振興係 田中・森元

〒890-8577 鹿児島市鴨池新町10-1

T e l : 099-286-2970 F A X : 099-286-5578

M a i l : gijyutu@pref.kagoshima.lg.jp

活用ください! 経営支援室

経営支援室では、窓口相談や専門家の派遣を通じて、創業や経営革新を支援しています。

●窓口相談

これから創業をしようとする方や経営課題を抱えている中小企業者の皆様からの相談を無料でお受けします。

<相談内容の例>

- ・資金調達の方法
- ・公的支援制度の活用
- ・新商品等のマーケティング
- ・会社設立、ビジネスプランの作成
- ・新商品、新生産方法の開発等に係る技術など



●専門家派遣事業

◆事業の内容

創業者や経営革新を図る中小企業者が抱える経営、情報化、販売、マーケティング等のさまざまな問題に対して、当センターに登録している民間の専門家を派遣し、診断助言を行います。

◆費用の負担

旅費、謝金等に要した費用の3分の2を当センターで負担します。

◆ご利用になった企業の声

- ・当社の通信販売事業について様々な指摘をしていただき、効果的な販売促進のノウハウを取得することができた。【食品製造業】
- ・通信販売事業における前年比が、売上150%、新規顧客獲得数120%を達成した。また、リピーター獲得の方法を取得できた。【飲食業】
- ・整理・整頓を全社的に展開でき完成品在庫・原材料在庫を60%低減できた。また、段取り時間を半分に低減できた。【プラスチック部品製造業】
- ・専門家から指導を受け学習することにより、経営者としての自分を見つめ直すことができた。【食品製造業】
- ・テストマーケティングを通じて、顧客ごとのニーズを把握することができた。また、専門家のアドバイスをもらいながら経営指針書・会社案内・カタログ・ホームページ等を作成した。【飼料製造業】



問い合わせ先 (財)かごしま産業支援センター 新産業育成課経営支援室

〒892-0821 鹿児島市名山町9番1号(鹿児島県産業会館2階)

電話:099-219-1273 FAX099-219-1279

受発注情報

当センターでは、仕事を発注・受注したい企業の希望条件（設備・技術力等）に見合った取引の紹介あっせんを行っております。今月は、下記の企業から受注の申し込みがきておりますので、あっせんの御希望がありましたら御連絡ください。

また、センターのホームページでも御覧いただけます。（URL：<http://www.kric.or.jp>）

◆受注情報

No.	所在地	資本金 (万円)	従業員数 (人)	受注希望品目 (加工内容)	主要機械設備
1	鹿児島市	300	6	精密機械加工部品	複合旋盤 (INTEGREX300-IV) マシニングセンター (NEXUS510C-II) ドリル研磨機 (FDG-32) 他

◆お問い合わせ先 (財)かごしま産業支援センター ビジネス支援課
TEL : 099-219-1274 FAX : 099-219-1279
E-mail : business@po.kric.or.jp

下請代金支払遅延等防止法（下請法）クイズ

【問題】

次の行為は、それぞれ下請法上、問題となるでしょうか。

- ① 広告制作を下請事業者に委託しているところ、最終ユーザーから発注をキャンセルされたことを理由に、あらかじめ定められた納期に下請事業者の給付を受領しなかった。
- ② 下請事業者の給付に必要な原材料等を有償で支給しているところ、この有償支給原材料等を用いた給付に対する下請代金の支払期日に当該原材料等の対価を下請代金から相殺した。
- ③ 下請代金を手形で支払っているところ、その手形期間を150日とした。

【解説】

①問題になる

下請事業者が納入してきた場合、親事業者は下請事業者に責任（不良品である場合等）がないのに受領を拒むと下請法上問題となります（受領拒否の禁止〔下請法第4条第1項第1号〕）。

この設問の場合、最終ユーザーが親事業者に対して発注をキャンセルしたことが要因になっていますが、これは親事業者と最終ユーザーとの間の問題であり、下請事業者に責任がない以上、親事業者が下請事業者からの受領を拒否することは問題となります。

②問題にならない

この設問の場合、有償支給原材料等を用いる下請代金の支払期日に当該原材料等の対価を相殺していることから、下請法上の問題とはなりません。

なお、下請代金の支払期日より早い時期に相殺した場合は、下請法上問題となります（有償支給原材料等の対価の早期決済の禁止〔下請法第4条第2項第1号〕）。

③問題になる

下請代金を手形で支払う場合、一般の金融機関で割り引くことが困難な手形を交付すると下請法上問題となります（割引困難な手形の交付の禁止〔下請法第4条第2項第2号〕）。

公正取引委員会及び中小企業庁は、繊維製品に係る下請取引においては90日、その他の下請取引においては120日を超えるいわゆる長期手形は、下請法第4条第2項第2号の規定に違反するおそれがあるものとして取り扱い、上記期間内に改善するよう指導しています。この設問の場合、手形期間が150日ですので、取引内容にかかわらず下請法上問題となります。

○下請法の相談はこちらに ⇒ 公正取引委員会事務総局 九州事務所 下請課
TEL : 092-431-6032 <http://www.jftc.go.jp/>

Information

1 ビジネス・マッチング・ステーションの御案内

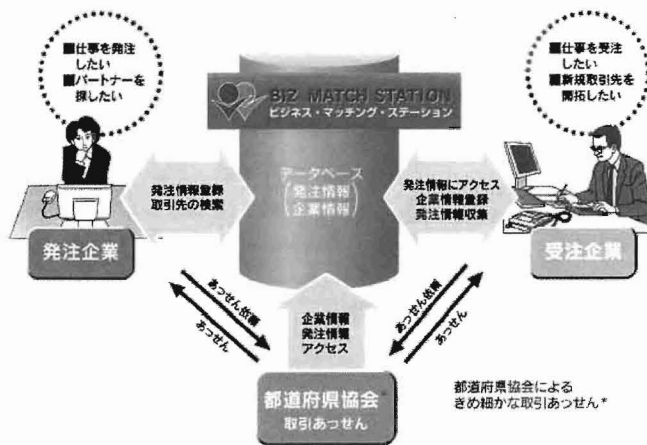
(1) ビジネス・マッチング・ステーションとは

中小企業の皆様がインターネットを用いて、取引先の開拓や販路拡大等を行うことをお手伝いするシステムです（会員制）。現在、約2万社の受発注企業が登録しております。

なお、登録、利用、年会費、成功報酬等の費用は一切無料ですので、是非とも御活用ください。



<システムトップ画面>



<システムイメージ図>

※都道府県協会とは、（財）かごしま産業支援センターを含む47都道府県中小企業支援機関のことを指します。

(2) ビジネス・マッチング・ステーションを利用するメリット

①取引マッチングを支援します！

サイト上には、「仕事を発注したい」、「受注したい」等の取引情報が数多く掲載されています。営業マンに代わり、インターネットが皆様方の取引マッチングをお手伝いします。

また、発注案件を検索した結果、取引を希望する場合は「システムで申込」ボタンを押すことにより発注企業に取引希望の意思を伝えることができます。

②自社情報のPRができます！

企業情報に信用情報を含めた具体的な内容を記載し、さらに受注情報に技術・製品情報等、自社PR情報を記載することにより発注企業からの検索対象として選ばれる確率が高くなります。

また、工場や製品の写真を掲載することも可能です（画像は1枚につき500KBまで2枚可能）。

③自社の被参照件数等の参考情報を利用できます！

自社に対する被参照件数や案件検索数が表示されます。件数が少ない場合は、被参照件数が多い企業の情報を参考として更新することや案件の具体的な内容を変更するなど取引成約に向けた工夫を凝らすことが可能です。

④ビジネスパートナーの検索ができます！

加工技術や保有設備、所在地等のキーワードを使って企業検索を行い、自社が求めるビジネスパートナーを探し出すことが可能です。

⑤パスワードは自社で変更自由、セキュリティ対策も万全です！

パスワードを自社で決定することが可能です。もし、忘れた場合は再発行の手続きを自社で行うことにより面倒な手続きが不要となります。なお、個人情報や登録企業データの情報漏えいや改ざんが起らないよう万全のセキュリティ対策を講じています。

⑥官公需情報が入手できます！

全国中小企業団体中央会からの提供に基づき、最新の官公需情報を得ることができます。

◆お問い合わせ先

（財）全国中小企業取引振興協会 東京都中央区新川2丁目1番9号 石川ビル2階

TEL：03-5541-6688 FAX：03-5541-6680

ビジネス・マッチング・ステーション：<http://biz-match-station.zenkyo.or.jp/>

2 事業継承支援施策説明会の御案内

こうすれぱうまくいく！経営のバトンタッチ
～知っておきたい制度の解説～

経営のバトンタッチ（事業承継）対策について悩んでいる経営者・後継者の方が非常に多いといわれております。現在、国は事業承継円滑化に向けた総合的支援策の整備を進めています。たとえば、各県に2～3箇所の割合で事業承継支援センターが配置され、事業承継に関するさまざまな相談への対応、必要に応じて専門家派遣などを行っております。

また、昨年10月には、「経営承継円滑化法」が施行され、相続税や贈与税の猶予制度、民法の特例、および金融面の支援が受けられるようになっていきます。

この説明会は、このような経営のバトンタッチに有益な制度（施策）を詳しく御紹介するものです。

まだ先のことと思われる方も是非この機会に奮って御参加ください。

- 【日 時】 平成21年7月23日（木）13:00～17:00
【会 場】 鹿児島県産業会館 3階会議室（鹿児島市名山町9-1）
【参加料】 無 料
【定 員】 80名（先着順）
【問合せ先】 独立行政法人中小企業基盤整備機構 九州支部 経営支援室
TEL：092-263-0300

詳しい内容及び申込書のダウンロードは、（独）中小企業基盤整備機構九州支部のホームページを御覧ください。

<http://www.smrj.go.jp/kyushu/seminar/047452.html>

3 新型インフルエンザ発生による「緊急保証制度」の見直しについて

緊急保証制度の実施に伴う特定中小企業者の認定要件等について、新型インフルエンザへの対応として、中小企業信用保険法第2条第4項における特定中小企業者の認定要件が追加され、新型インフルエンザの発生により事業活動に影響を受けている中小企業者が、認定を受けやすくなりました。

また、対象業種の見直しを行い、新型インフルエンザの影響を受けている映画館・劇場、業況が悪化している産業用ロボット製造業など26業種を平成21年6月23日追加指定することとなりました。

併せて、利用実績が少なく、今後の利用が見込まれない綿紡績業などの5業種を平成21年6月23日までの適用とすることとなり、この結果、対象業種は全体で781業種となります。

認定要件

下記の①～④をいずれも満たすこと。

- ①主とする事業が国の指定する業種（*1）に属していること。
- ②新型インフルエンザの影響により事業に影響を受けていること。
- ③最近1か月間（申請月の前月）の売上高等が前年同月と比べて3%以上減少していること。
- ④上記(3)の期間を含む今後3か月間の売上高等が、前年同期と比べて3%以上減少することが見込まれること。

*1 対象業種については、中小企業庁のホームページで御確認ください。

http://www.chusho.meti.go.jp/kinyu/sefu_net_5gou.htm

詳しくは、それぞれの市町村へお問い合わせください。

鹿児島県人材育成センター利用の御案内

当センター出先機関の鹿児島県人材育成センターでは、企業の在職技術者など人材育成の支援を主たる目的として、各種の講座・研修を実施しているほか、企業自らが企画する会議・研修・講演などの会場として、低廉な使用料で利用していただいております。皆様の参加及び御利用をお待ちしております。

自主講座：食品加工・機械加工・QC手法・ISO関係など29講座を実施
 施設利用：150人収容の大研修室のほか大小6室を低廉な使用料で提供
 （詳しくは、下記までお問合せください）
 所在地：霧島市国分中央3-44-36



■問合せ先■ (財)かごしま産業支援センター 鹿児島県人材育成センター
 〒899-4332 霧島市国分中央3-44-36
 TEL：0995-47-3090 FAX：0995-46-4413 E-mail：jinzaic7@po.kric.or.jp

「かごしま企業情報」への掲載の御案内

当センターでは、県内中小企業の情報発信の充実と検索等の利便性を図ることを目的に、当センターのホームページ上に「かごしま企業情報」を構築し、掲載企業の募集をしています。

インターネットを使用しての登録・更新が可能で、登録企業側の操作もしやすくなっています。

一社でも多くの企業に掲載していただければビジネスチャンスの拡大に繋がることが期待されます。掲載料は無料ですので、お気軽に御登録ください。



■問合せ先■ (財)かごしま産業支援センター 情報支援課
 TEL：099-219-1275 FAX：099-219-1279 E-mail：info@po.kric.or.jp

メール配信サービス「KISCNEWS」の御案内

当センターでは、イベントや研修など各種のお役立ち情報をEメールで無料配信するサービスを行っております。配信を希望される方(機関または個人)は、次の当センターホームページからお申し込みください。

(お申込み先URL：http://www.kric.or.jp/publication/kiscnews/top.htm)

■問合せ先■ (財)かごしま産業支援センター 情報支援課
 E-mail：kiscnews@po.kric.or.jp



■「情報KISC」の今月の表紙■

表紙写真は、自動散水・止水制御装置で「2009年元気なモノ作り中小企業300社」の日本のイノベーションを支えるもの作り中小企業として選定された

株式会社日本計器鹿児島製作所
 取締役工場長 吉田 学 (右) さんと
 技術部 部長 加藤 正明 (左) さんです。

所在地：南九州市知覧町5159-1
 TEL:0993-83-2663
 URL:http://www.nkworks.co.jp/

情報KISC 7月号

発行者：財団法人かごしま産業支援センター
 〒892-0821 鹿児島市名山町9-1 鹿児島県産業会館2F

TEL 099-219-1270 (代表)
 FAX 099-219-1279
 E-mail kisc@po.kric.or.jp
 URL http://www.kric.or.jp